48 宮津の体験価値をデザインする

若者が住んでみたくなる体験と場所づくり

京都光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科 指導責任者 羽深太郎先生

活動背景

ユーザーエクスペリエンスの授業テーマについて学生と教員で検討を進めるなかで、昨年ライフデザイン学科を 卒業された方が4月から宮津市に移住し、シェアハウス運営、レモンの栽培と商品開発、農旅インターンシップに 取り組まれている事を知りました。そこで今年度は京都府宮津市をフィールドに、若者の移住者増加に貢献する 体験価値のデザインをテーマに活動する事にしました。

宮津市の現状をを理解する Step1

宮津市の現状と取組みを理解するために、令和3年6月の宮津市議会定例会で議決された 「第7次宮津市総合計画」を学生全員で読み、グループワークで理解出来た事をまとめました。

第7次宮津市総合計画

令和3年 宮津市

急激な人口減少

宮津の現状

観光消費額は増えているが

行政の取組み

私たちの気持ち

昭和30年をピークに 宮津の人口が半分以下に グラフを見てショック

観光だけですべて補える 状況でない事がわかった

行政が地域の為に様々な 活動に取組まれている事を 始めて知りました

天橋立があり京都を代表す る有名な観光地が過疎化に 直面している事を知った

このままだと40年後には 宮津から子供がほぼ居なく なる事に衝撃を受けた

お母さん世代が子供と外食 したり、気晴らしが出来る 場所が少ない事がわかった

宮津に関心を持つ人を増や┃新しく住む人を呼んでくる┃ す事で「関係人口の創出」 に取り組んでいる

だけでなく、住み続けて もらう為の取組みがあった

若者世代に向けた子育て支

援や都会から移住した人の

孤立を防ぐ支援があった

「共創」という言葉が印象 に残った。行政と市民が 一緒に取り組む事が大切

「若い世代の人たちが活動出来る場所づくり」と「観光以外の新たな宮津の価値を活かした地域産業の創出」が大切

場所づくり:「株式会社 宮津町家再生ネットワーク」

地域産業の創出:「株式会社百章」との連携授業を計画

若者の活動拠点づくりの大切さを理解する







株式会社宮津町家再生ネットワークでは、地域の空家を リノベーションすることで、宮津に住む若者に向けて 「はたらく場所」と「くらしの場所」を創生する活動に 取組まれていました。







私達は宮津市のシェアスペース「島崎ちしや」のリノ ベーション活動に参加させて頂き、「茶室の解体」と 「古家具の修復」「屋外テラスの改修」に取組みました。 リノベーション活動に参加したフロアと屋外テラスは 8月に行われた「宮津市灯籠流し花火大会」の飲食イベ ントに活用されました。

新しい価値創造と宮津の魅力を発信する Step3



株式会社百章は4年前から宮津でレモン の育成をスタート。収穫したレモンの 販売に加えて、加工したレモンをレモ ネードとして商品化し、地域の新たな 価値あるとして販売しています。

私たちはレモンの収穫体験とレモネード の商品化の過程を学んだうえで、レモン とレモネードの魅力を動画にまとめて、 VlogとしてSNSで発信しました。

約1か月間に渡り行った宮津のレモンと レモネードに関する動画は約4000人を 超えるユーザーに視聴してもらう事が 出来ました。